

福島県立平工業高等学校生徒会（社会福祉活動・国際貢献活動）

～ すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために ～

平工業高校生徒会は「すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために」を活動理念に 日々活動しています。ボランティア活動は、地域周辺から国際貢献支援まで幅広く活動しています。

（１） アルミ缶回収による車椅子寄贈

この活動は、平成13年度5月から実施しています。活動のきっかけは校内美化作業の際に回収されたアルミ缶を何かに利用できないかと考えたこときっかけです。アルミ缶は専門業者へ買い取ってもらいます。この換金されたお金で車椅子を購入し、研修させていただいている特別養護老人に対し、お礼をさせていただこうというのがはじまりです。

現在、生徒や先生方が飲んだ飲料の缶をアルミ缶とスチール缶に定期的に分別をしています。近年では地域周辺の方々のご協力もあって、たくさんのアルミ缶回収に結びついています。

[これまでの実績] これまで14年間で車椅子35台を寄贈

平成14年 2月16日 第1号	平成14年 9月13日 第2号	平成15年 6月 5日 第3号
平成15年12月 8日 第4号	平成16年10月 8日 第5号	平成17年 6月13日 第6号
平成17年10月 5日 第7号	平成18年 1月25日 第8号	平成18年 3月20日 第9～10号
平成18年 6月16日 第11号	平成18年 9月12日 第12号	平成19年 1月11日 第13号
平成19年 6月20日 第14～16号	平成19年11月 5日 第17号	平成19年12月21日 第18号
平成20年 4月 4日 第19号	平成20年 6月17日 第20号	平成20年 9月 8日 第21号
平成20年12月24日 第22号	平成21年 4月 7日 第23号	平成21年 9月30日 第24号
平成21年12月22日 第25号	平成22年 3月19日 第26～28号	平成22年 9月 6日 第29号
平成22年12月22日 第30号	平成23年 7月30日 第31号	平成23年11月 4日 第32号
平成24年 9月 8日 第33号	平成25年 9月 7日 第34号	平成26年 9月 6日 第35号

そして活動15年目の今回（平成27年9月12日に）車椅子2台（36号・37号）を寄贈しました



回収されたアルミ缶



寄贈する車椅子



寄贈の様子

（２） インクカートリッジ回収による開発途上国支援

使用済みプリペイドカード・インクカートリッジで開発途上国への支援が可能であるという情報を調べた当時の生徒会役員により、平成17年度から国際貢献事業としてスタートしました。NGO団体を通して、リサイクル業者やコレクターに売却換金されたこれらの物資は、アジア・アフリカの開発途上国の医療品・教育費・地雷撤去費等に役立てられます。生徒会報で先生方や全校生徒に協力を呼びかけた他、近隣のカメラ店、コンビニエンスストアにも協力を依頼し、現在も活動中です。この活動は平成17年度から実施しており、主にバングラデッシュやネパールの子どもの鉛筆やノート等の教育支援に役立てられています。

支援の流れ

↓

NPO法人シャブニール

↓

売却・換金

↓

医療費・教育費・地雷撤去費

24000枚・・・製粉機 1枚・・・駆虫薬

(3) ペットボトル回収による開発途上国支援

平成20年度「ペットボトルキャップで世界の子どもたちに笑顔を」を合言葉に活動を開始しました。全校生徒や先生方、地域の方々から支援物資を回収して貧困に苦しむ世界の子どもたちの支援活動に取り組んでいる団体に寄付をしています。



(4) アフリカ・マリ共和国への支援物資発送

卒業生が在学時に使用した学校の運動靴やジャージを再利用できないかと考えたことがきっかけで平成18年度から活動を始めました。卒業生から集めたジャージや運動靴は、洗濯して、NGO法人を通じて寄贈をしています。輸送費は校内で募金活動を行い、まかなっています。これまでも直接的な国際支援で、以前はモンゴルに物資を発送してきましたが近年モンゴルでは物資が充足し、世界的にも恵まれた状況にあることから、より貧困にあえぐアフリカ・マリ共和国に発送先を変更しました。マリ共和国のあるサハラ砂漠一帯は、日中の強い日差しと夜の厳しい冷え込みとの寒暖の差が激しいにもかかわらず、50人に1人しか靴が確保できず、寒さをしのぐシャツや毛布1枚すら満足に得られない状況にあります。また5歳未満の乳幼児死亡率が高いことも支援の一因となりました。



このほかにも地域貢献のために、さまざまなボランティア活動を実施しています。



まとめ … 生徒会活動を振り返って

一見、順調に見える本校の生徒会活動も、当初は活動が認知されず全校生徒の協力がなかなか得られませんでした。アルミ缶の回収一つとってみても、ゴミが分別されていなかったり、ジュースの飲み残しがあったり、ゴミの後始末から始めなければならず大変でした。

そこで、生徒会役員は『生徒会報』を定期的に発行して、活動を報告し、理解してもらおうと工夫しました。また、生徒会役員が率先して、校内外の清掃・ゴミ拾いを行い、環境美化に努めてきました。その甲斐あって、現在では全校生徒はもちろん、教職員や保護者が家庭で集めたプルタブやアルミ缶、ペットボトルキャップや古着も寄付してくれるようになりました。

これらの活動は生徒会役員が問題意識を持って、それに向き合い、考え実行してきた活動の成果であると考えます。活動開始から15年が経ちますが、これらの活動が、これまで絶えることなく受け継がれてきた「平工生徒会の精神の強さ」を感じます。これらの成功には、次の要因が考えられます。

1つ目は、身近にあるものを利用し、私たちにできることを行ってきたためであります。ジャージや運動靴、辞書、使用済みプリペイドカード・インクカートリッジ、アルミ缶、ペットボトルキャップなど、捨てればゴミとなるものに対して、再利用を考えた取り組みであり、これらの資源を活用することで、困っている人たちを支援できることに着目しました。私たち一人ひとりの力は小さくても、学校全体が一丸となれば、達成できるのです。

2つ目は、全校生徒や先生方、地域の皆さんの理解と協力があったからです。私たちの活動の趣旨は、困っている人たちに適切な支援をすることですが、活動をすればするほど、私たちの方こそ多くの人々に助けられているのだということを感じさせられます。人と人とのつながり、絆の大切さを学びました。

そして最後に、「すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために」という熱い思いこそが最大の理由であり、私たち生徒会の活動の原点でもあります。この気持ちを忘れることなく、社会が笑顔であふれることを願って、これからも一歩ずつではありますが、地道に活動を続けていきたいと思えます。